

# NPO法人ほうぼく—抱樸

## 「ひとりにしない」という支援

困窮者支援事業部  
中間 あやみ

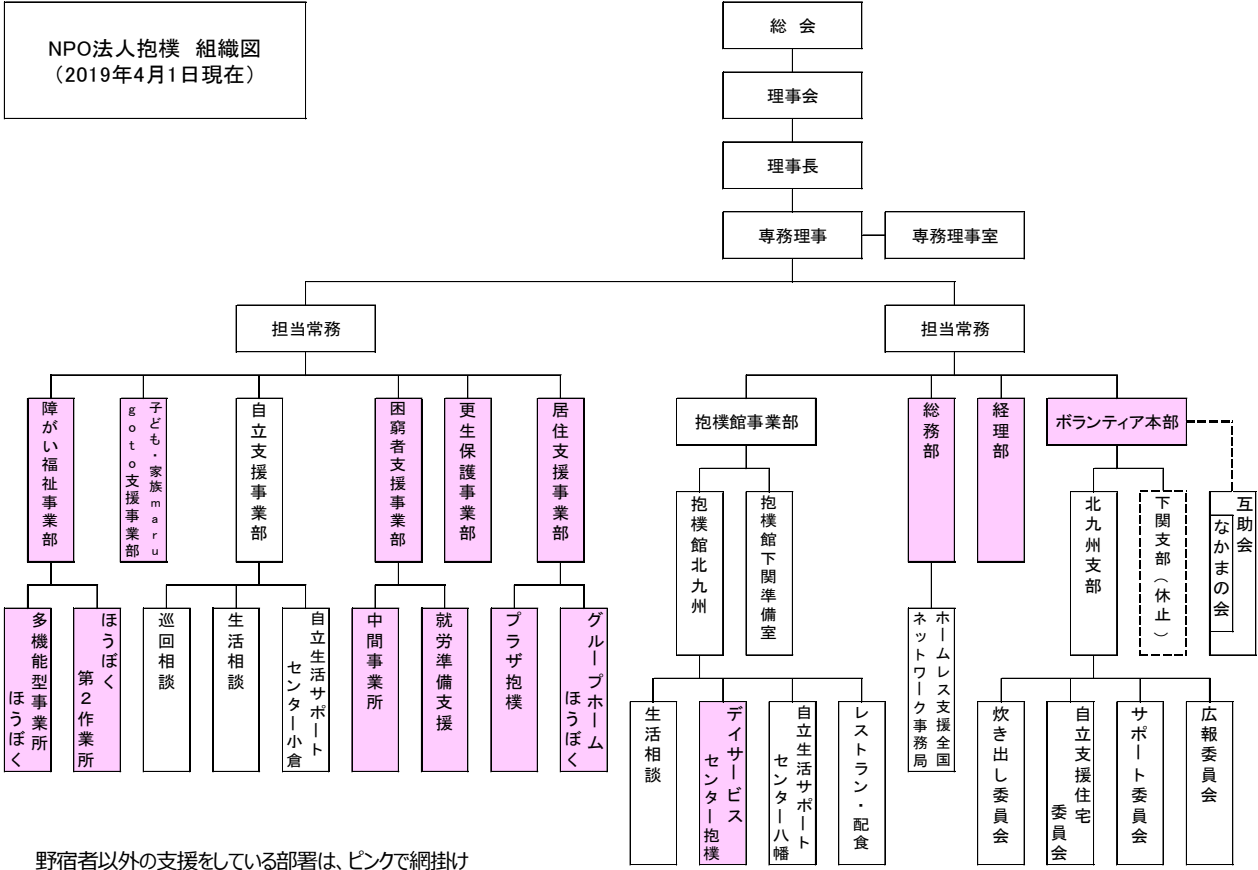


NPO法人ほうぼく — 抱樸 1

## 抱樸の概要

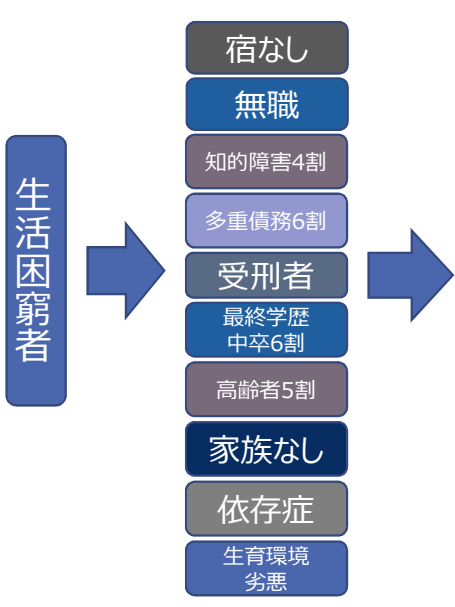
- ・活動開始1988年 **32年目**
- ・ホームレスからの自立 3500人（居宅設置等）
- ・自立達成率 93%（6ヶ月の自立プログラム）
- ・生活継続率 92%
- ・就労自立率 58%
- ・生活サポート実施 約2000名（北九州・福岡・下関）
- ・北九州市・下関市・福岡市・中間市に拠点
- ・有給職員104名（正規職員70名）
- ・登録ボランティア約1500名
- ・互助会約280名（当事者約160名）
- ※22部署、27の事業により **包括的総合支援を実施**

NPO法人抱樸 組織図  
(2019年4月1日現在)



# 抱樸の特徴

◆人を属性で見ない ◆一人との出会いから事業展開 ◆断らない



実施事業	
自主事業	1 炊き出し委員会
	2 自立支援住宅委員会
	3 サポート委員会
	4 広報委員会
	5 互助会
	6 抱樸館北九州 (生活相談・レストラン・配食)
	7 生活サポートセンター小倉
	8 生活サポートセンター八幡
	9 見守り支援付住宅 プラザ抱樸
	10 金銭管理支援事業
	11 居宅設置支援の会 事務局
	12 ホームレス支援法律の会 事務局
	13 地域生活定着支援協議会 事務局
	14 総務部
	15 経理部
制度事業	16 グループホーム抱樸
	17 デイサービスセンター抱樸
	18 多機能型障がい作業所ほうぼく
委託事業	19 B型作業所ほうぼく
	20 巡回相談事業 (北九州市)
	21 生活相談事業 (北九州市)
	22 日雇い労働者等技能講習事業 (厚生労働省)
	23 自立相談・家計・子ども支援事業 (中間市)
	24 就労準備支援事業 (北九州市)
	25 子ども・家族まるごと支援事業 (北九州市)
	26 刑余者・地域生活定着支援センター (福岡県)
	27 再犯防止立ち直りサポートセンター (福岡県)

抱樸27事業  
自主事業 15事業  
制度事業 4事業  
委託事業 8事業

抱樸館北九州



デイサービスセンター



住まいの支援：プラザ抱樸/グループホーム



互助会イベント



中間市センター



障害作業所

子どもの親への支援



葬儀・追悼



ゴーイングホームデイ



子ども学習・居場所支援



# 抱樸の意味・由来

---

## 1、樸のまま抱く

- ・樸⇒荒木・原木の意味、そのままの木という意味
- ・条件を付けない
- ・ありのままのその人を抱きとめる

## 2、原木には可能性がある

- ・杖や家具になり、様々な役割を果たす
- ・社会的な孤立・他者性の貧困で自己喪失の状態にもなっている
- ・時間を共有しながら、待つ支援

## 3、絆は傷を含む

- ・原木えあるがゆえに、刺々しくもある
- ・絆は傷を含む
- ・例え傷つき合っても、抱きあえるような関係を
- ・社会とは健全に傷つための仕組み

# 今日の困窮問題の2つの本質

---

## ◆ハウスレスとホームレスは違う

### 1、ハウスレス—経済的困窮（衣食住がない）

- ・この人には、何が必要か？

### 2、ホームレス—関係性の困窮・社会的孤立（相談できる人がいない）

- ・この人には、誰が必要か？
- ・孤立を生まない・早期発見の社会の仕組み、仕掛けが必要

# 抱樸のミッション・大切にしていること

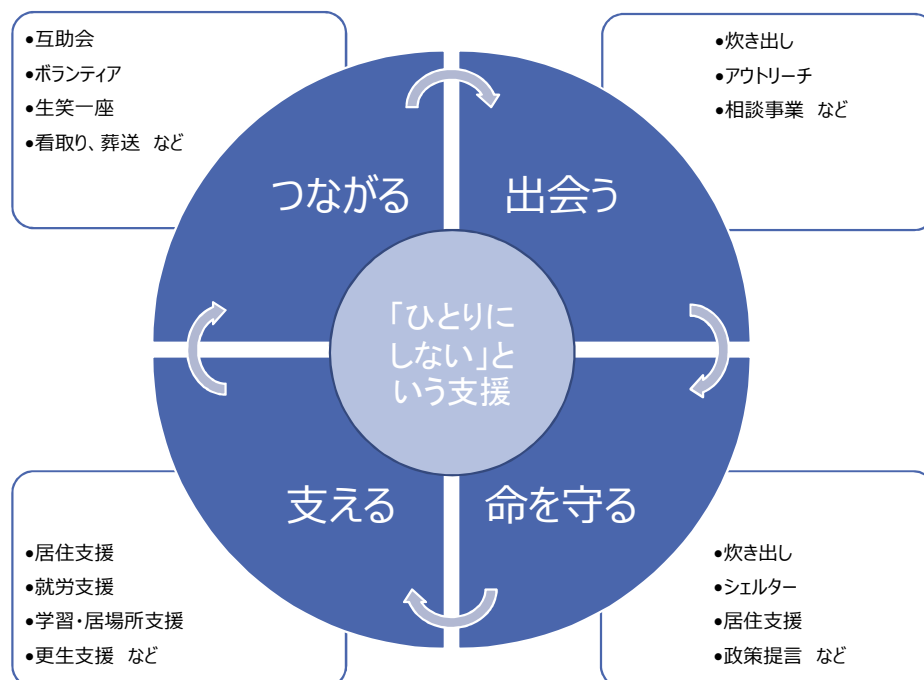
## ◆抱樸のミッション（使命）

- 1、ひとりの路上死を出さない
- 2、ひとりでも多く、1日でも早く、路上からの脱出を
- 3、ホームレスを生まない社会を創造する

## ◆抱樸の大切にしていること

- 1、生きることに意味がある
- 2、断らない相談
- 3、つながり続ける
- 4、伴走支援・人生の支援・世帯を丸ごと支援・制度の狭間への支援
- 5、社会創造・社会変革—自分たちで創っていこう！

# 「ひとりにしない」という支援



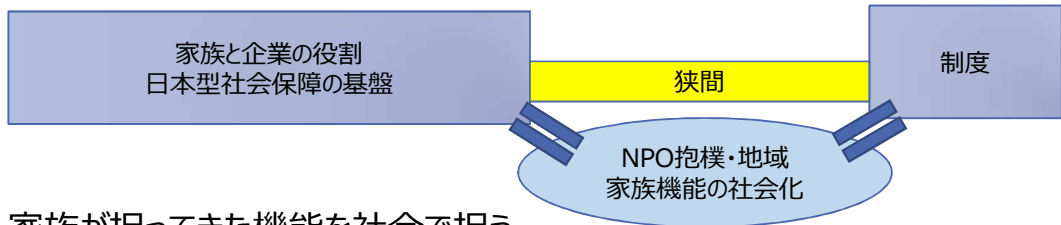


# 抱樸が目指しているもの

## ◆家族機能の社会化

### 1、社会構造の変化

- ・制度の狭間が生まれる／制度との狭間が生まれる



### 2、家族が担ってきた機能を社会で担う

- ・家庭内のサービス、記憶、家庭外とのサービスの関係、  
役割と意味の付与、何気ない日常を支える（葬儀まで）  
⇒伴走型支援（つなぎ-戻しの連続）、世帯を丸ごと支援する、  
不足するものは自分たちで創る（制度は現実の後追い）

## まとめ

### ◆まとめ

- 1、野宿者支援から活動を開始したが、現在は様々な分野に事業展開
  - ・子どもとその家族世帯、生活困窮者、刑余者など
- 2、伴走型の支援を重視—家族の代替的機能も
- 3、NPOの利点を活かし、制度の狭間を埋める活動
- 4、独自に事業を展開—補助金、助成金、寄付などを活用